

マクロ経済学Ⅰ

科目ナンバリング ECT-203
選択 2単位

田中 賢治

1. 授業の概要(ねらい)

マクロ経済学は現実経済を分析するための学問です。今の日本経済が抱える問題は、マクロ経済学を用いることで分析することが可能です。本講義は入門マクロ経済学を学んだ学生を対象としており、現実経済の分析ツールであるマクロ経済学の基本概念の理解を一層深めるとともに、現実のデータを見ながら、日本経済が抱える問題をマクロ経済学の観点から学ぶことを目的としています。マクロ経済学は、現実の経済現象を理解し、経済問題を解決するための政策判断に不可欠です。日々、経済に関するニュースが新聞紙上をにぎわしています。これらの情報を、マクロ経済学を用いて自分なりに考え理解できるようになることは、社会人になってから大いに役立つことでしょう。

2. 授業の到達目標

- (1) マクロ経済学の基本概念についての理解を深め、マクロ経済にかかわるニュースを正確に理解し、説明できるようになる。
- (2) マクロ経済統計の定義や作り方を把握することで、それらのデータが意味することを理解し、正確に読み取る力を身につける。
- (3) 日本経済の抱える諸問題について理解するとともに、それらに対する政府や中央銀行の経済政策の影響について分析する力を身につける。

3. 成績評価の方法および基準

授業内小テスト(不定期)40%と期末試験60%で評価します。

4. 教科書・参考文献

教科書

福田慎一・照山博司 『マクロ経済学・入門(第5版)』 有斐閣,2016年

参考文献

福田慎一・照山博司 『演習式マクロ経済学・入門(補訂版)』 有斐閣,2013年

グレゴリー・マンキュー 『マンキュー経済学Ⅱマクロ編(第4版)』 東洋経済新報社,2019年

5. 準備学習の内容

- (1) 講義は基本的に教科書に対応した形で進めます。受講前に対象箇所を熟読し、問題意識をもって受講すること。教科書を何度も読み返すことで理解が深まります。受講後にも、教科書を繰り返し読むことで理解度を高めること。
- (2) 講義中に多くのマクロ経済統計を扱います。講義後にはWebサイトで統計の原典にあたることで、統計に慣れ親しむことが望めます。

6. その他履修上の注意事項

- (1) マクロ経済学を体系的に理解するためには、「マクロ経済学Ⅰ」とあわせて「マクロ経済学Ⅱ」の履修が必要です。連続履修を推奨します。
- (2) マクロ経済学は現実経済を分析するためのツールです。毎日、新聞の経済記事に目を通し、現実経済への感度を磨くこと。
- (3) 講義中の私語などの迷惑行為は厳禁です。

7. 授業内容

- | | |
|--------|--|
| 【第1回】 | ガイダンス(オンライン授業)
授業案内 |
| 【第2回】 | GDPとは何か
GDPの概念と三面等価について学びます |
| 【第3回】 | 消費と貯蓄の理論(1)
消費理論(ケインズ型消費関数、ライフサイクル仮説など)について学びます |
| 【第4回】 | 消費と貯蓄の理論(2)
貯蓄率について考察します |
| 【第5回】 | 設備投資と在庫投資
設備投資の決定要因について考察します |
| 【第6回】 | 金融と株価(1)
企業の資金調達と家計の資産選択について考察します |
| 【第7回】 | 金融と株価(2)
株価決定理論とトービンのqについて学びます |
| 【第8回】 | 日本の設備投資(オンライン授業)
設備投資の理論を用いて設備投資が盛りに上がらない理由を考察します |
| 【第9回】 | 貨幣の需要と供給(1)
貨幣の機能と貨幣需要について学びます |
| 【第10回】 | 貨幣の需要と供給(2)
貨幣供給と利子率の決定理論について学びます |
| 【第11回】 | 乗数理論とIS-LM分析(1)
有効需要の原理と乗数理論について学びます |
| 【第12回】 | 乗数理論とIS-LM分析(2)
IS-LM分析について学びます |
| 【第13回】 | 総需要・総供給分析(1)
総需要曲線と総供給曲線を学びます |
| 【第14回】 | 総需要・総供給分析(2)
物価とGDPの動きを分析するモデルを学びます |
| 【第15回】 | 授業のまとめと総復習 |